

30年12月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成30年 12月1日～ 30年12月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
12月分の回答企業数は9社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		30/12月	31/1月	2月
伐採動向	スギ	16.7	0.0	△ 8.3
	ヒノキ	△ 12.5	△ 25.0	△ 25.0
	カラマツ	0.0	△ 25.0	0.0
	エゾ・トド	50.0	33.3	△ 16.7
出荷・販売動向	スギ	40.0	20.0	0.0
	ヒノキ	△ 16.7	0.0	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	エゾ・トド	50.0	50.0	50.0
手持立木 在庫動向	スギ	16.7	0.0	0.0
	ヒノキ	△ 16.7	△ 16.7	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	16.7
	エゾ・トド	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0

・スギの伐採動向は12月の増加から1月は横ばい、2月は減少に。ヒノキは3カ月連続減少。カラマツは12月の横ばいから1月は減少、2月は再び横ばいに。エゾ・トドは12月、1月の増加から2月は減少に。

・スギの出荷・販売動向は12月、1月の増加から2月は横ばいに。ヒノキは12月の減少から1月、2月は横ばいに。カラマツは3カ月連続横ばい推移。エゾ・トドは3カ月連続増加。

・スギの手持立木在庫動向は12月の増加から1月、2月は横ばいに。ヒノキは12月、1月の減少から2月は横ばいに。カラマツは12月、1月の横ばいから2月は増加に。エゾ・トドは3カ月連続減少。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・当月で国有林の素材生産請負事業のカラマツ間伐を完了させ、国有林内の手持ち立木のトドマツ間伐に入る。例年より降雪の始まりも遅いので、伐採は順調に推移するものと思われる（北海道）。
- ・国有林の素材生産請負事業を継続中。エゾ・トドの伐採増加（北海道）。
- ・スギ、カラマツともに12月中旬までは積極的に伐採する。その後は積雪の状況次第（東北）。
- ・12月末までスギ伐採中で当月増加（東北）。
- ・スギ、ヒノキの主伐を実行中（中国）。
- ・当月、スギ皆伐を4ha実施するためやや増加する（九州）。

(出材・販売動向)

- ・一般流通材の量が少ないので、出材・販売はやや増加する見込み。運材車を多く配車できれば販売は増加する（北海道）。
- ・国有林の素材生産請負事業を継続中。エゾ・トドの出材・販売増加（北海道）。
- ・スギ、カラマツともに12月中旬までは積極的に出材・販売する。その後は積雪の状況による（東北）。
- ・12月末までスギ出材中で当月増加する（東北）。
- ・今の所降雪もたかく順調にスギ ヒノキ出材（中国）
- (手持ち立木在庫)
- ・当月から手持ちのトドマツ立木を伐採するので、立木在庫はやや減少である（北海道）。
- ・請負事業のみ実施中のため在庫に変動はない。但し、2月以降は手持ち立木に着手予定（東北）。
- ・スギ、カラマツとも積極的に手当する。徐々に在庫が増加する見込み（東北）。